



とほろざわ THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKOROZAWA

2025 年 9 月 通巻 429 号

今月のテーマ EMC



会 長	小林 勉	クラブ会長主題 「人、出会い、交流」
副会長	岡部八千代	国際会長 A・シヤナヴァスカーン（インド） 「より良い世界のために、共に」
	澁谷弘祐	アジア太平洋会長 ジョウン・ウォン（香港） 「大きなインパクトを起こそう」
書 記	宮地輝子	東日本区理事 山下 真（十勝）「ワイズらしさ再発見」
会 計	金本伸二郎	関東東部部長 鈴木雅博（江東）「CHANGE （変革）若者から発信！」

今月の聖句

一切の思い煩いを神にお任せしなさい。
神が、あなたがたのことを心にかけていて
くださるからです。

ペトロの手紙一 5 章 7 節

9 月例会

9 月 13 日（土）14:00～16:00

場所：YMCA 子育て子育てセンター

- | | |
|---------|------------|
| 司会 | 岡部八千代 |
| 1 開会点鐘 | 小林 勉 |
| 2 聖書・祈り | 金本伸二郎 |
| 3 講師紹介 | 大澤和子 |
| 4 講演 | 村上（八重樫）絢子氏 |
- 「それぞれのカミングアウト
～ ハンセン病問題を理解するために～

- | | |
|---------|------|
| 5 質疑応答 | |
| 6 お礼の挨拶 | 澁谷弘祐 |
| 7 閉会点鐘 | 澁谷弘祐 |
- ・・・・講演後のおしゃべり会・・・
入場無料

準備の都合上出欠をお知らせください
所沢ワイズメンズクラブの LINE で
宮地 Tel 090-8302-5495

村上（八重樫）絢子氏プロフィール

28 年間にわたり、夫と共にハンセン病回復者の声を記録し、発信を続けてきたフリーライター
著書多数

リハビリ

宮地輝子

今年 4 月、思いもよらぬ半月板損傷で手術となり、その後、2 か月余りの入院生活を体験しました。

骨折やけがで、長く入院となると、長期間ベッドの上の生活となり、傷は治っても、歩けなくなってしまうという観念がありました。包帯でぐるぐる巻きになった足を天井からひもでつるして、ベッドに横たわっている子どもの頃見たマンガの一コマそのままが手術した私の姿であろうと思っていました。

ところが、手術の翌日からリハビリが始まりました。1 日 2～3 回のリハビリは退院までには、凡そ 100 回以上受けたことになります。

手術のお蔭で故障した箇所が治り、そして、それに続くリハビリのお蔭で、無事に、足で歩けるようになったと思います。傷が治っても寝たきりの入院で歩けなくなるという予想とは全く違い、リハビリの力の大きいことに感動しました。

リハビリ室は大きく、いろいろな設備、器具、道具があり、多くの患者さんがリハビリを受けています。私の場合も私個人に合わせた治療の目標、手順、方法などが決められていて、それに沿って、先生がリハビリをしてくださる。それが理学療法士さんとか作業療法士さんなどの資格を持つ先生であることを知りました。日本では 1960 年代頃から、理学療法が取り入れられたとのことで、医療の分野で、重要な役割を持つようになったと聞き、まさにリハビリを受けることにより、その重要性を実体験させていただきました。

手術した病院で 2 人の先生が私のリハビリを担当してくださり、膝関節を曲げる練習やお腹やお尻の筋肉を使って足を上げるとか、また、歩行器の使い方等々、

私だけの、メニューを作り、リハビリを施してくださいました。お二人とも、高齢の私を力づけたり、慰めたり、時には厳しくおっしゃっても、元の姿になれるようにという温かな心くばりが感じられ、理学療法だけでなく、たくさんのメンタル療法もしていただいたように思っています。リハビリは担当以外の多くの先生にもお世話になりましたが、どの先生もみな志は同じく、温かく熱心にリハビリを施してくださいました。

1回のリハビリで、40分あまりの時間を、マンツーマンで受けるわけですから、なんと恵まれた状況かと思いました。先生からの指導のメニューを練習しながら、わからないことを質問したり、また、出身の故郷の話をしたり、趣味や、日ごろの状況を話したり、話題はあらゆる範囲で、それは単調で、気持ちが落ち込んでしまう入院生活にとって、清涼剤のような働きをしてくれたと思います。入院して、落ち込みがちな私の励ましになったり、また、慰めになったり、先生の体験談に驚いたり、感動したり、いつの時も先生と交わした話はとてもよかったと思っています。

このようにして受けたリハビリは、怪我をして、故障した膝を、何とか元の形で使えるようにするため、リハビリを重ねてくださる理学療法士の先生の働きのなんと尊いことかと、初めて知ることができました。

どうして、理学療法士の先生になられたのかと、多くの先生にお尋ねしたところ、ご自身が怪我をして手術入院した時にリハビリを受けて、ご自分もリハビリの先生になろうと思ったとか、家族が入院してリハビリを受けているのを見て、なりたと思ったとか、ご家族に理学療法士になられた方がいて自分もと思ったなど、どの先生も、ある一つの確かな想いをもって、その道に入られたことを、そしてその心をもってリハビリを施してくださいしていることをすばらしいことだと思いました。医療の分野に理学療法が取り入れられて、まだ60年余りとのことですが、医学の進歩とともに、理学療法はさらに大きく私たち患者の大きな助けになることだろうと思いました。



アジア太平洋地域大会・熊本開催報告

大澤和子

8月1日から3日まで、熊本にてアジア太平洋地域大会が開催され、18の国・地域から583名が参加し、所沢クラブからは澁谷副会長と大澤が出席しました。

開会式では、藤井寛敏氏（東京江東・元国際会長）の司式の下、エドワード・オン氏（シンガポール）が

新国際会長に就任。「Faith・Love・Action（信仰・愛・行動）」の重要性を呼びかけ、スローガン「Together Stronger（共に強く）」を掲げ、互いに支え合いながら、謙虚さと思いやりをもち歩む決意を表明されました。続いて、エドワード・オン氏の司式により田上正氏（熊本むさし）がアジア太平洋地域会長に就任しました。基調講演では、大野嘉宏氏（京都パレス・在京都ラオス名誉領事）が、ラオスにYMCAを設立する取り組みについて語られました。共産圏であるラオスでの設立の困難さに触れつつ、西村隆夫元国際書記長、小畑貴裕氏（東京YMCAホテル専門学校長）と共に、「設立は神様のミッション」との信念をもって、粘り強く交渉と祈りを重ねていく姿勢が印象的でした。



IPAP ナイトでは、各国・地域の出し物で盛り上がり、東日本区は、浴衣や法被を着て東日本大震災復興プロジェクトのテーマソング「花は咲く」を歌いました。大会2日目は、4つのコースに分かれてのエキスカッションが行われ、熊本城ホールではユースによる活動発表と音楽セッションが開催されました。

日曜礼拝では、アジア太平洋地域 CE の川上直哉牧師がメッセージを語られました。エペソ人への手紙2章19節「あなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖人たちと同じ国籍のものであり、神の家族な



のである。」を引用し、東日本大震災以降の石巻の現状について触れられました。若者の都市移住により労働力が不足し、それを東南アジアの方々が補っている現状の中、外国人への偏見やヘイトスピーチが広がっていることへの憂いを語り、「平和の祈り」で対抗することの大切さを訴えられました。

その後、1年間の活動報告が行われ、ユースによる発表もありました。30名以上のユースに1人ずつ終了証を手渡し、短い感想を述べてもらう試みがありましたが、時間の制約もあり全員の発表は叶わず、「平和」をテーマにした活動の意義が十分に伝わらなかったことが惜しまれます。最後に、2026年国際大会および2027年アジア太平洋地域大会のプロモーションが行われ、閉会となりました。

YMCA 報告 (埼玉 YMCA 総主事) 太田 聡

YMCA では、この夏も多くの子どもたちが仲間と共に学び、遊び、成長の体験をしました。

この夏、700名の子どもたちがYMCAのプログラムに参加しました。水泳や体操の短期講習会、英語のサマースクール、国内外でのキャンプなど、多様な活動を展開しました。特に、所沢市から委託を受けて初めて実施した「サマープレイス」では、学童に入れなかった待機児童を対象に、宿題や遊びを通して安心して過ごせる場を提供することができました。働く親世代のサポートにつながります。

また、オレゴンでの国際キャンプや、ぐんま YMCA との合同キャンプ、横浜 YMCA との依存症治療キャンプの協力など、YMCA のネットワークを活かした取り組みも広がり、子どもたちは新しい環境で挑戦と発見を重ねました。(写真：三浦 YMCA でのカヤック)



秋は地域とつながるイベントが目白押しです。

11月3日(月) YMCA チャリティーラン

子どもたちご家族が走り、集まった募金を障がいのある子どもたちの支援に活かします。

11月23日(日) YMCA フェスティバル

会員や地域の方々と交流しながら、バザーやステージ企画を楽しめる恒例行事です。

これらのイベントは、ワイズの皆さんをはじめ、多くの方のご協力によって成り立っています。ぜひ引き続きお力添えをお願いいたします。

この夏の700名の子どもたちの成長体験が大きな事故なく無事に終了したことに心から感謝いたします。秋のイベントを通じて、地域にさらに広がる YMCA の輪をともに築いていきましょう。

8月例会報告

宮地輝子

出席者：(敬称略) 12名

ゲスト6名：大城・大野・工藤・水上・八重樫・渡邊
所沢ワイズ6名：大澤・太田・金本・小林恵子・小林茂和・宮地



8月9日(土) 18:00 から YMCA 所沢センター207・208号室で8月例会が行われました。今回は太田総主事の卓話なので、多くの方に聞いていただこうと、大澤さんのお声がけでYMCAのウェルネスの会員6名が参加されました。その中のお一人で9月例会の卓話者村上(八重樫)さんにもいらしていただきました。

ゲストを紹介した後、和やかに話しながら、お弁当をいただきました。大澤さんが9月の講演のポスターをAIで簡単に作成できたと、皆さんに配布したところ、今、AIは大変な進化をしていると、太田総主事がAIを使っでの作業を実演してくださいました。例えば『水泳、親子で参加、親が子供に教える方法のポスター』と話しかけると、次の瞬間、瞬く間にその条件を揃えたポスターができました。その能力の高さに驚いたり、感心したり、思いがけないところで、AIの現状を知ることができました。

お弁当の後、太田総主事の卓話『埼玉YMCAの現状と今後の展望』が始まりました。太田総主事は大学在学中にイギリスにボランティア留学した経験からも、YMCAには自分のやりたいことがあると思い、2002年に入職されたとのこと。次は総主事の卓話です。『YMCAは1844年、若い青年12人が集まり、ボラン

ティア運動として、イギリス、ロンドンで始まった。現在 120 の地域に 6500 万人の会員がいる。日本では 35 都市に 200 拠点、参加者 14 万人が活動している。日本では 1880 年に東京で設立された。そして、東京の外側にも YMCA を作ろうということで 1973 年、埼玉 YMCA ができた。アメリカに YMCA の大学があり、冬に体を動かすレクリエーション要素のあるスポーツを作ろうということで、バスケットボールが、そして、ネットを張って接触のないようなスポーツとして、バレーボールが考案された。日本で初めて室内温水プールを始めたのは東京 YMCA。そして今では 0 歳～100 歳まで幼児や大人を対象としたプールのクラスを全国で実施している。1990 年代になると、学習障害の子供たちをサポートするクラスを始める。このように時代の中で、課題とされたことに取り組んでいくのが YMCA。それが 180 年続いている理由と言える。

スポーツクラブやキャンプや保育園、プールなど、YMCA と同じようなことをしている団体があるが、YMCA と他の団体の違うところは、YMCA は非営利団体で、会員はお客様ではなく会員であり、YMCA 運動に賛同していただく仲間という感じでやっている。フィリピンワークキャンプや、最近では災害支援も行っている。

YMCA を支える方法は①プログラムの参加者になる。②ボランティアとして参加する。③協力会員になる。ワイズへの加入も YMCA を支えることになる（ワイズは YMCA を支えるためのボランティア団体）

最近気になる社会課題は①ゲーム・インターネット依存症・②外国ルーツの子供たちの環境・③社会的孤立である。これらの取り組みもしていきたい。』



およそ 35 分の卓話はクイズがあり、巧みな話術で引き込まれるようなお話で、YMCA について、よく知ることができた素晴らしい内容でした。

卓話の後、YMCA 報告を、太田総主事が、ブリテンの記事に沿って説明されました。

次のワイズ報告は会長がお留守なので、書記が代わり、おもに、7/19 の第 1 回関東東部評議会について報告しました。

今月の結婚記念の方はなしで、誕生祝では、ゲストの渡辺（恵子）さんと所沢クラブの小林（恵子）さんの二人です。それと、ブリテン 8 月号を読んで、東日本区理事の山下さんから所沢クラブの例会 8/9 は山下さんの誕生日だとメールをいただいていたので、一緒に祝うことにして、3 人の方のお名前を入れて、ハッピーバースデーを歌いました。初めていらしたゲストの方とも和やかに、そして、太田総主事の貴重な卓話をいただいた充実の例会でした。閉会 17:50

ワイズ報告

小林 勉

8 月 1 日（金）～3 日（日）2 泊 3 日の第 31 回アジア太平洋地域大会が「For Greater Joy！」の大会テーマを掲げて、熊本城ホールとホテル日航熊本を会場として開かれ、渋谷副会長・大澤さんが出席しました。

8 月 9 日（土）所沢センターにおいてワイズクラブ月例会を開き、太田聡 総主事 の卓話をお聴きしました。私は他に所要があり太田さんの話を聞くチャンスを逃しましたが、ワイズ活動をするうえで Y M C A のいろいろな活動内容を知る事は非常に重要なことと思います。

地球温暖化の影響で 8 月も連日耐えがたい酷暑が続き、屋外活動は危険が伴う状況でした。私個人としても日中の外出は極力避け、どうしても出かける用事があるときは日傘をさして外出していました。

まだまだ酷暑が続くようです。皆さま体調管理に十分気を付けましょう。

今後の予定

宮地輝子

9 月 1 日（月）ブリテン発行（一面 宮地）
9 月 13 日（土）クラブ 9 月例会 14:00～
於：YMCA 子育て子育てセンター
講演：村上（八重樫）絢子氏
準備係：上山・大澤
9 月例会報告 岡部
10 月 1 日（水）ブリテン発行（一面 小野塚）

埼玉 YMCA を支える

狭山茶ようかん

狭山紅茶ようかん

1袋8個入りで500円です

焼き芋ようかん・イチゴようかんもあります

